

# 国内研修報告書

研修期間：2016年1月31日（日）～2月5日（金）

## 【目次】

- 1、厚沢部町に決まるまで
- 2、具体的な活動
- 3、全体を通しての感想
- 4、余談と付録

### 1、厚沢部町に決めるまで

今回私たちは研修先として、北海道の厚沢部町という場所を選びました。なぜ、厚沢部町に決めたのかと言うと、厚沢部町は人口が4100人という過疎問題を抱えているにも関わらず、過疎問題に他の地域とは少し違ったアプローチで取り組んでいたからです。

1年を通して大学で授業を受ける中で、過疎問題に取り組む地域の話は何度も耳にしました。しかし、成功例として挙げられるどの地域も他の地域から人を取り込むだけで、日本が抱える人口減少問題により影響を与えるわけではなく、根本的には何も解決していないように感じました。では、厚沢部町はどう過疎問題に取り組んでいるのか。どうやら「素敵な過疎の町を作る」ことで立ち向かおうとしているようです。そこで私たちは「素敵な過疎の町」を見るため、そしてそれに取り組む方々から話を聞くために厚沢部町に行くことにしました。・・・在来線で。(詳しくは余談で)

現地では、現代福祉学部の卒業生で地域おこし協力隊として活動されている川合龍成さんに案内等して頂きました。

### 2、実際の活動

今回の研修で私たちは厚沢部に4泊したので、そこでの活動等全てに触れるのは難しいと感じたのでその中でも特に印象が残った2つに触れようと思います。

まずは、「ちょっと暮らし住宅」の見学について触れようと思います。厚沢部町には「ちょっと暮らし住宅」という厚沢部建設協会によって建てられた4つの新築住宅があり、夏と冬に1週間から1ヶ月の間家族で仮暮らしができるというものです。この制度は厚沢部そのものと、厚沢部の魅力を泊まった人に知ってもらい、厚沢部が気に入った人には厚沢部に移住してもらうことを目標としたものです。

私たちは4つの住宅のうち3つ見学することができました。最初に行った住宅は町民の家が近く、町民の間に泊まりに来た人をもてなすという意識が強く、最も厚沢部での暮らしを身近に感じることでできる住宅だそうです。その住宅はC棟と呼ばれており、C棟は1階建ての平屋で和の雰囲気を取り入れた住宅になっていました。平屋である理由は、階

段を上ることが困難な高齢者や車いすの方でも利用できるからで、4棟の中で最も高齢者の方に人気の住宅のようです。少し話は逸れてしまうのですがC棟には和室があり窓側には障子のようなものもありました。「障子のようなもの」とは一見すると柄などから障子に見えるのですが、よく見ると窓ガラスであることが分かり気づいたときは驚きました。その後は町の中心地にあるA棟とB棟に行きました。どちらも近未来的な作りで、泊まった人が楽しめる住宅だと感じました。



見学を終える前に、川合さんからちょっと暮らし住宅について話を聞くことができました。現在、ちょっと暮らし住宅に泊まったことで移住を決めた人はまだいないそうです。理由は、泊まりに来る方の年齢の問題と厚沢部町として受け入れる準備が整っていないから、ということでした。近未来的なハイセンスの住宅を建てることで、人を呼ぶことはできても、その後のことまで見据えた制度設計をしないと、「移住」という大きな決断を促すことはできないのだと知りました。

「現地の人と話す」というテーマで非常に勉強になったことは、地域おこし協力隊の宴会に参加させて頂いたことです。宴会ではその日の日中にお会いした観光協会事務局長の今泉さん、3次会では協力隊隊員の千葉さんと長原さんから話を聞くことができました。

話を聞いた中で、特に千葉さんと長原さんから聞いたことが印象に残っています。千葉さんは地域おこし協力隊で農業部門を担当している方です。千葉さんは「農家はもっと減るべきだ」と話していました。最初にその話を聞いたとき、農家の数は全国的に十分減少しているのではないかと思い、発言の意図が理解できませんでした。千葉さんの言いたかったことは、隣同士なのに所有している機材が一緒であったり、離農した農家が残した土地を取り合うなどの無駄が多い点。農協の経営が悪化するかつぶれれば、足元を見た値段を提示することが無くなり、意識の低い、つまり多くの無駄を抱える農家が淘汰されること。そうすれば意識の高い、つまり効率的な農業を行う農家が残る、ということでした。千葉さんの話を全て理解できたわけではないと思いますが、現場の方のシビアな話を聞いたことは大変勉強になりました。

また、長原さんは地域おこし協力隊で音楽療法を担当している方で、翌日には長原さん

の行う音楽療法にも参加させて頂きました。3次会場で長原さんから聞いたことは、認知症に関することが主でした。音楽療法は認知症予防に最もよく効き、高齢者の方々が昔聞いた曲を歌うことは、曲の歌詞を思い出すことと、当時の記憶を思い出すことを促すことが予防になると聞きました。そもそも認知症は、毎日同じことしかしないことで日々に刺激がないことが原因でなるそうです。だから音楽療法の場に訪れること、私たちがそこに参加することも高齢者にとっては刺激になるのだと教えていただきました。長原さんから聞いた話は、認知症の勉強になっただけでなく、音楽療法に参加するメンバーによって選曲と長原さん自身のキャラを変えるという話にプロ意識とそのレベルの高さを感じずにはいられませんでした。

お二人の話はどちらも現場で働いている方の話だったので、大学で授業を受けて知ることや、ニュースで知る知識よりもずっと説得力があり、自分の知識の得かたに対する視野の狭さと知識に対する貪欲さが不十分であることを痛感しました。この学びを活かして、残りの学生生活を過ごしたいと強く思いました。

### 3、全体を通しての感想

最後に研修全体を通して私が学んだこと、感じたことを述べたいと思います。今回の研修で客観的に自分たちを最も評価できる点は、準備に十分な時間をかけられる限りのことをしたうえで厚沢部に向かえたことです。川合さんに大学で講義をして頂いたときのレジュメを見直し、必要な情報だけを抜粋したものや、厚沢部町の特産品や地形や地名、気候の研究、研修期間中に行われるイベントを調べたうえでのスケジュール提案など、初の課外活動ということで可能な限りやれることをやってから行くことができました。その点を川合さんにも評価していただけたので、間違っただけでなく安心もしました。

しかし、私個人としては厚沢部に到着してからは反省するべき点が非常に多かったと感じています。特に今回の研修では、現地で活動する方と住んでいる方に話を聞くことが目的だったにもかかわらず、話を聞けるタイミングで聞けなかったことが多々ありました。この点に関しては最終日前夜に川合さんにも指摘されてしまいました。この点に関して言えば、私の誤算でもあったわけですがそこまで想定できなかったこと、そして聞くべきタイミングであることを認識できなかったことが反省点です。もし次また機会があったときはこの部分を意識して活動したいと思います。

今回の研修では多くの人と出会い、自然に触れることもできました。私はそこで一瞬地方の「よさ」を盲目的に「正しい」と理解しそうになりました。確かに普段東京で生活する私にとって、地方の人の温かさや自然の力は心動かす魅力があると思います。ただ、その魅力は決して「正しい」のではなく東京には東京の魅力が、もちろんどんな場所にもその土地の魅力があるのだと思います。この気づきは例えば、将来私が就職先を選ぶときにその地域の魅力や、企業の魅力をしっかりと私に合っているのか冷静に考えるきっかけに

なると思います。

今回の研修では私自身の価値観の変化などは一切ありませんでしたが、自分の成長と考えがより洗練されたことを感じた研修でした。また機会があればこのメンバーでどこかに行きたいと思いました。

#### 4、余談と付録

報告書は以上になります。ここからは余談で在来線になった理由を少し述べて、触れきれなかった厚沢部の基本情報を付録として載せて終わりにしようと思います。

私たちのグループは男女混合の5人組です。その時点で一番安く北海道に行ける夜行バスは危険なので候補から外しました。残る選択肢は新幹線か在来線か飛行機になります。飛行機ですと、吹雪などで飛行機が出ない際にリカバリーが効かないのでやめました。在来線になった理由は「せっかくだから大学生にしかできないことをするため」です。ご存知の方も多いと思いますが、青春18切符なるものが存在し、私たちはそれを利用して行ったのだと思うことでしょうか。残念ながら「国内研修の研修可能期間」と「18切符の利用可能期間」が全く被っておらず、利用できません。私たちは緑の窓口で切符を作っていただけ、在来線で厚沢部に行きました。(帰りは新幹線です。)

付録として厚沢部町の基本情報も載せておきます。興味のある方は目を通してみてください。(準備段階で制作したものと同じものです)

##### 【厚沢部概要】

人口：4184人(2015年9月30日)

高齢化率：37.6%(2015年)

面積：460km<sup>2</sup>(8割が山林、1割が田畑)

農家件数：300戸(専業/兼業が半々)

学校事情：小学校4校、中学校が3校、高校はナシ

年間平均気温：-0.9℃

年間最低気温：-5℃(八王子と同程度)

最大積雪量：58cm

特産品：メイクイン、サツマイモ、じゃがいも、蝦夷舞茸、切り干し大根、切り干しごぼう、グリーンアスパラ(フレッシュネス・バーガーで使用されている)、光黒大豆、小豆、大根、焼酎「喜多里」(メイクインやさつまいもが原料)

お土産：厚沢部羊羹、厚沢部ストラップ(巨大コロケ)、名菓厚沢部(白あんの上品な風味を活かした・・・らしい)